

保育学科では「学習成果の自己評価」を平成23年度から改善を重ねて実施してきた。令和2(2020)年度卒業生は、実習を経験する前のⅠ期：1年生の8月、Ⅱ期：1年生の2月、Ⅲ期：本実習を全て終えた2年生の9月(幼稚園・保育所実習Ⅰ・保育所実習Ⅱ・施設実習が概ね終了後)、Ⅳ期：就職活動を経験し保育実践研究を作成し終えた2月に、「学習成果の自己評価」を実施した。保育者に必要な資質能力についての自己評価で、〈人間性〉〈他者との協力〉〈コミュニケーション〉〈幼児教育についての理解〉〈保育についての理解〉〈子どもについての理解〉〈基礎知識・技能〉〈保育実践〉〈課題探求〉の9領域について4段階で評価している。

4：十分に理解(習得)できた 3：おおむね理解(習得)できた
2：理解(習得)に努力を要する 1：一層努力を要する

教育課程半期終了ごと自分自身の状況を評価し、到達度を省察した結果は下記のとおりである。

次の表図には令和元(2019)年度入学生における上記4時点における「学習成果の自己評価」について検討した結果を示した。4時点の分散分析の結果、Ⅰ期とⅣ期において、平均評定値に有意な差がみられた。このことから、学生は2年間を通じて学習成果を獲得したことを示しているといえる。しかし、4時点の平均評定値の変化過程は領域によって異なっており、その変化は一定ではないことがわかった。そこで、時期の継時的変化の特徴ごとに図にまとめた。

それぞれの特徴は、平均評定値の4時点の変化は、Ⅰ期の自己評価が低く、Ⅱ期で上昇し、Ⅱ期からⅢ期にかけて伸びず、Ⅲ期からⅣ期にかけて増加する領域(タイプ1)、そして、タイプ1の変則型としてⅡ期からⅢ期にかけて減少する領域(タイプ1変則)、Ⅰ期からⅣ期にかけておおそずっと増加(Ⅱ期からⅢ期にかけてあまり上昇しなかった)する領域(タイプ2)、Ⅰ期からⅡ期で上昇、その後はあまり変わらず最初に増加する領域(タイプ3)と大きく3つのタイプがあり、タイプ1の変則型を加えた4つを推察する結果が示された。

まず、タイプ1は、「人間性」の領域であった。Ⅰ期の自己評価得点は3.04であり、Ⅳ期の時点では3.29を示している。Ⅱ期の時点でも3.24を示しており、1年次の授業において自己覚知について学び、保育者としての自分自身について探求する学習の積み重ねによる成果が示された結果であると推察される。そして、Ⅲ期の得点の減少は、2年次前期の実習活動を通し自らの課題と向き合ったことで自分自身に対する評価を修正し、振り返りを通して自身の課題について明示化を図り、自己理解を深める学生の姿が推察できる。

タイプ1変則は、「他者との協力」「子どもについての理解」の領域であった。1年次の学習では、反転型学習や協同学習の手法を多く用いた授業が実践されており、日々の教育を通して保育者の専門性として必要不可欠な専門的知識と協同性が養われたことが推察される。その一方で2年次は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言等により、そうした機会が学内と学外での学びの双方において抑制され減少したことにより、Ⅲ期での減少が見られたものと考えられる。しかし、その後の学習と実習を通じた体験的な学びにより、Ⅳ期において再度上昇したものと考えられる。

タイプ2は、「保育についての理解」「保育実践」に関する領域であった。どちらの領域もⅠ期の自己評価得点が低く、Ⅳ期において大きく得点が上昇した領域である。保育に関する理解を深められていることに関する内容であるため、1年次の授業において取り組んできた反転型や協同学習の手法を用いた学びを通じた学習成果の高まりについて推察できる。また、併せて保育実習及び教育実習での実践を通じた体験的な学びにより、その学習成果は更に高められたことが推察される。

タイプ3は、「コミュニケーション」「幼児教育についての理解」「教科・教育課程に関する基礎知識・技能」「課題探求」の領域であった。Ⅰ期からⅡ期にかけて上昇し、それ以降あまり変化しなかった項目である。1年次における学習を通して、学習成果を獲得し、それらがその後も維持された学生の姿が推察される。

全ての類型において、学生が1年次の学習から学習成果をしっかりと獲得してきた姿が推察される。また、それと同時に新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う学習環境の変化（学内での受講授業のみならず、実習等の学外での学習も含めて）により、継続的かつ段階的な学習成果の獲得に影響を及ぼしたことについても推察される。

学習成果は単純な直線増加的に生じるものではなく、時期や環境により獲得される経験の種類によって異なっているといえる。むしろ学習成果は自身の成長により理解できる事柄が増えることで新たな課題に気付けるようになり、成果の到達目標が変化することでより高められるとも言える。

こうした学びと思考のプロセスを経て学生が学びを深めることが明らかになったことは、本学科におけるカリキュラムにおける学習成果の獲得が適切に行われていると同時に、「学習成果の自己評価」が適切に査定されていたことを示していると考えられた。

表 平均評定値の時期変化

領域		I 期	II 期	III 期	IV 期	F値	多重比較	
		1年次	1年次	2年次	2年次			
		8月	2月	9月	2月			
人間性	平均	3.04	3.24	3.11	3.29	5.09	**	I < II, I < IV, (III < IV)
	SD	0.48	0.42	0.44	0.41			
他者との協力	平均	3.18	3.53	3.30	3.46	8.76	***	I < II, II > III
	SD	0.47	0.44	0.47	0.45			
コミュニケーション	平均	2.95	3.33	3.36	3.34	14.99	***	I < II・III・IV
	SD	0.52	0.47	0.43	0.39			
幼児教育についての理解	平均	2.70	3.08	2.95	3.06	8.86	***	I < II・III・IV
	SD	0.54	0.53	0.48	0.49			
保育についての理解	平均	2.71	3.09	3.15	3.31	21.38	***	I < II, II < IV
	SD	0.54	0.52	0.45	0.46			
子どもについての理解	平均	2.69	3.11	2.83	3.03	9.81	***	I < II, II > III, (III < IV)
	SD	0.65	0.50	0.45	0.50			
教科・教育課程に関する基礎知識・技能	平均	2.62	3.08	2.91	3.09	15.55	***	I < II・III・IV
	SD	0.55	0.50	0.44	0.39			
保育実践	平均	2.36	2.92	3.07	3.24	31.18	***	I < II, II < IV
	SD	0.72	0.59	0.45	0.41			
課題探究	平均	3.01	3.27	3.22	3.28	5.69	**	I < II・III・IV
	SD	0.49	0.49	0.43	0.45			

***P < .001

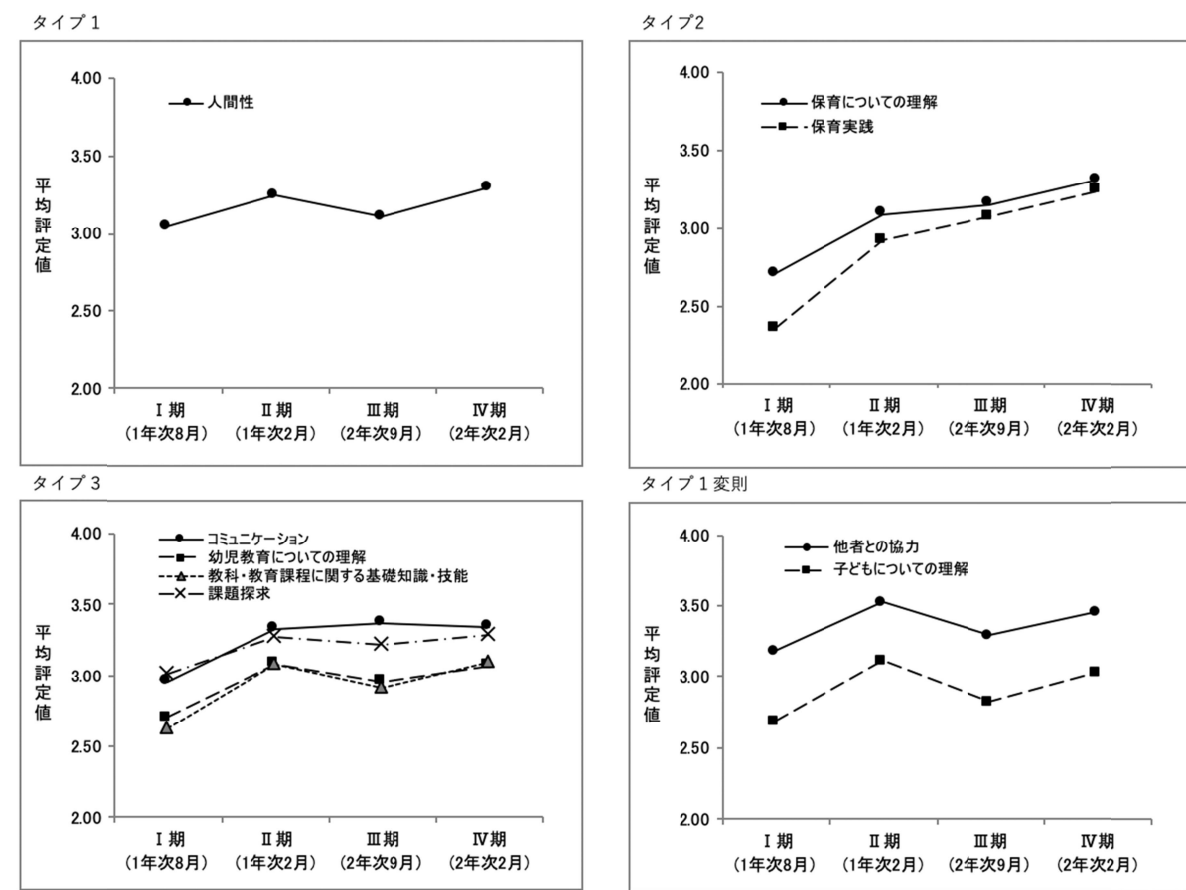


図 学習成果の自己評価の特徴的な変化

「学習成果の自己評価」から1年生のI期と2年生のIV期を比較し、下表に示した。全ての領域のIV期の平均評定値が3.0を超える結果が示された。項目についてみると、「他者との協力」における「表現力」の項目、「幼児教育についての理解」における「教育の理念・教育史・思想の理解」「保育の社会的・制度的・経営的理論」の項目、「子どもについての理解」における「子どもの状況に応じた対応」の項目、「教科・教育課程に関する基礎知識・技能」における「情報機器の活用」の項目が評定平均値として3.0を下回る結果が示された。

これらの項目は、I期の平均評定値が高い結果として示されているものではないため、学生にとってもともと課題として捉えられているものであることが推察されるが、今後の課題として、より充実した学びの在り方について、検討することが必要であると考え。特に「表現力」の項目は、I期とIV期の評定平均値を比較した場合にも0.17の上昇幅であったため、他の項目と比較しても増加が少ないといえるものであり、より精緻な表現力向上のためのプログラムの検討が必要である結果が示された。

そして、「教科・教育課程に関する基礎知識・技能」における「保育内容5領域」の項目に関しても平均値の上昇がI期とIV期の評定平均値を比較したところ、0.08とほぼ横ばいであったため、この点に関しても学生がより理解しやすい学びのための学習のプログラムの検討が必要であるといえる。保育内容の領域は、保育者が保育を理解し、子どもの姿を捉えるための視点であるため、こうした内容について、学生がより具体的に理解できる形での領域に関わる授業において連携し、協力した形での学習のプログラムの検討が必要であると考えられる。

その他の項目に関しては、概ね良好な学習成果の増加を示しており、本学科におけるこれまでの取り組みの成果が学生にも自己評価として認識できるように結実した結果であるといえる。

表 1年生のI期と2年生のIV期の比較

項目	I期 (1年生8月)		IV期 (2年生2月)		IV-I	
	平均値	S D	平均値	S D		
人間性	自分の性格に関する自己理解	3.06	0.52	3.40	0.49	0.34
	自分の行動特徴に関する自己理解	3.01	0.55	3.25	0.54	0.24
	向上心	3.05	0.69	3.21	0.64	0.16
他者との協力	表現力	2.76	0.69	2.93	0.66	0.17
	他者意見の受容	3.21	0.59	3.56	0.50	0.35
	保護者・地域との連携協力	3.24	0.69	3.51	0.53	0.27
	共同保育の実践実施	3.00	0.73	3.36	0.61	0.36
	他者との連携・協力	3.35	0.53	3.60	0.52	0.25
	役割遂行	3.17	0.66	3.39	0.61	0.22
コミュニケーション	発達段階に対応したコミュニケーション	2.72	0.65	3.04	0.47	0.32
	子どもに対する態度	3.18	0.65	3.68	0.47	0.50
	公平・受容的態度	3.08	0.63	3.47	0.53	0.39
	社会人としての基本	2.82	0.76	3.21	0.59	0.39
幼児教育についての理解	教職の意義	3.03	0.61	3.33	0.55	0.30
	教育の理念・教育史・思想の理解	2.57	0.66	2.92	0.58	0.35
	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	2.51	0.62	2.93	0.55	0.42
保育についての理解	保育の意義	3.04	0.61	3.46	0.61	0.42
	保育の理念・保育史・思想の理解	2.60	0.68	3.27	0.52	0.67
	保育の社会的・制度的・経営的理解	2.50	0.61	3.23	0.55	0.73
子どもについての理解	心理・発達論的な乳幼児の理解	2.88	0.67	3.08	0.58	0.20
	クラス集団の形成	2.72	0.78	3.05	0.56	0.33
	子どもの状況に応じた対応	2.49	0.79	2.97	0.59	0.48
教科・教育課程に関する基礎知識・技能	保育内容5領域	3.16	0.61	3.24	0.59	0.08
	幼稚園教育要領・保育所保育指針	2.65	0.74	3.17	0.47	0.52
	教育課程・保育課程の構成に関する基礎理論・知識	2.49	0.76	3.03	0.49	0.54
	情報機器の活用	2.53	0.70	2.99	0.47	0.46
	保育の指導法	2.35	0.70	3.03	0.55	0.68
保育実践	保育構想力	2.07	0.84	3.18	0.52	1.11
	教材開発力	2.44	0.84	3.24	0.49	0.80
	保育展開力	2.54	0.92	3.40	0.57	0.86
	表現技術	2.38	0.80	3.20	0.61	0.82
課題探求	課題認識と探究心	3.18	0.56	3.42	0.55	0.24
	教育・保育時事問題	2.83	0.74	3.14	0.56	0.31